

2017年度 第1四半期決算説明会
主な質疑応答

● 全社

Q：事業利益増減要因分析（スライド11）では、昨年度に引き続き価格変動のプラス効果が大きい
が、今後もこうした傾向が続くのか。

A：基本的に、価格変動は、プロダクトミックスも高付加価値モデルの比率が増加していることから、
プラスの傾向は継続すると予想している。
プロジェクターの高光束モデルの増加や、インクジェットプリンターのミックス改善などが価格
変動のプラス要因となると見込んでいる。

● プリンティングソリューションズ

Q：今回の通期業績予想には、大容量インクタンクモデルの成長をどのように織り込んでいるのか。

A：前年度のインクジェットプリンターの販売台数は約1,500万台であり、その内の大容量インクタンク
モデルは約610万台であった。
今年度は、期初予想の段階で大容量インクタンクモデルの販売台数を約730万台程度と見込んで
いたが、第1四半期の状況を踏まえ、740万台以上へと上方修正した。

Q：第1四半期のインクカートリッジモデル本体の生産投入数量は、前年度の第1四半期が高水準で
あったことから、前年同期比で減少したとのことであるが、今年度の第2四半期以降の水準は前
年に対して大きな変動を予想しているのか。

A：2016年度以降、在庫水準もコントロールされており、2017年度の第2四半期以降は、前年度に
対して第1四半期ほどの大きな差異は発生しない見込み。
また、インクジェットプリンターに占める大容量インクタンクモデルの比率も上昇しているので、
生産投入数量の変動による利益への影響は数年前に比較すると小さくなってきている。

Q：部品調達先の火災影響による費用増加を想定しているとのことだが、この具体的な内容について
教えて欲しい。

A：具体的な調達先や調達部品等については、個別の取引に関する内容であることから、回答を控え
させていただきますが、現在、調達先火災に伴う生産・販売面等における影響を精査しつつ、適
宜、対応を図っている。
代替え部品の調達については目途が付いているが、販売への影響を極小化するため、航空輸送な
どの追加的費用の発生を見込んでいる。

Q：高速ラインインクジェット複合機／プリンターの販売が開始されたが、お客様からの反応などを
教えて欲しい。

A：2017年6月の販売開始以降、各地での販売デモ等で実際に高画質・高速印刷をご覧くださいこと
により、非常に多くの販売店様やお客様から引合いを頂戴している。

また、従来はエプソンが採用先のリストに入れていただけることが無かったような大企業などからも声を掛けていただけるようになるなど、高速ラインインクジェット複合機／プリンターに対するお客様の期待は高いことを実感している。

このような状況の下、欧州でも本年6月から販売を開始したほか、米国では8月、中国では12月から販売開始の予定であり、更なる販売強化に取り組んでいく方針である。

- ウエアラブル・産業プロダクツ

Q：ロボティクスソリューションズ事業におけるエプソンのロボットの特長や、用途などを教えて欲しい。

A：エプソンのロボットは、高速・高精度・低残留振動が特長であり、精密な部品や機器の組立用途などに適している。

中華圏でのスマートフォンや電子部品などの組立需要を中心に、欧米向けにも自動車関連機器の組立用途などで販売数量が伸長している。

以上